

# おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 15 号 (8 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1 東海戦 逆転負けにも光明あり

8 月 21 日 (日) 小雨降る山形商業グラウンドにて、Y1 第 11 節東海大山形戦が行われました。第一試合の山形商業 - 山形城北戦の途中から雨が降り始めた関係で、第二試合の東海大山形 - 山形東戦では、さらに、ボールは転がりにくく、水を吸って重たくなったボールはなかなか飛ばず、スリッピーなピッチコンディションとなることが予想されました。そのピッチコンディションがどちらのチームに吉と出るか。夏のトレーニングの成果がどう出るか、久しぶりの公式戦に緊張と不安を覚えながら、キックオフの笛を聞きました。

試合が始まると、山東の入りは悪くない。特に FW ゴメの出来が良い。もともとドリブルに非凡なものがありましたが、最近の 1 対 1 の練習・ドリブル練習で元々の才能が開花したか、「運ぶドリブル」と「突破のドリブル」<sup>1</sup>を使い分ける術を身につけ始め、敵からしたら嫌らしい(味方からしたら頼もしい)プレーを連発。またドリブルとパスのバランスも良くなり、成長を感じさせる。右 SH リクを走らせる狙い通りの攻撃でシュートまで持ち込み、「行ける！」という雰囲気最初から漂う。ただし、相手は東海大山形。3 年生がいたチームでも、Y1 第 2 節で勝ち切ることができなかった相手(スコア 2 - 2)。こちらが攻めると相手もしっかり攻め返してくる。五分五分の入り。その膠着状態の均衡を破ったのは、何と山東！ ボランチのショータが中央をワンツーパスで抜け出し、ハムに優しいスルーパス。それをハムが落ち着いて流し込み、山東先制。「相手を崩した」と呼べるパスワークからの先制に、意気上がる山東。対して東海は、「こんなはずじゃない」という、山東の好調ぶりに当惑した心境か。それもそのはずで、新チーム立ち上げの頃は何でもない攻撃で失点し、ほぼ決め手なく敗れていた訳で、それを知っている方からすれば、山東の好調はまるで嘘のよう。そりゃ当たり前です。顧問今野も、「なんでこんなに成長したんだ？」と首を傾げてるんですから。守備では、リョウが打点の高いヘディングとパワフルな対人プレーで、相手の攻撃を寸でのところで防いでいる。ここ最近、ケーポッパー<sup>2</sup>または略してポッパーなど、パッパラパーのような呼び名で呼んでいたのですが、こんなにもリョウを頼もしいと思ったことはない！！ 左 SB のコウキは初先発だけに最初硬いプレーが目立ちましたが、徐々に低い重心からの粘り強いプレーという持ち味が発揮される。得点シーンだけではなく、攻守にわたり互角の戦いと評価できる。

ただ、前半の後半は押し込まれる時間の方がやや長い。やはり、東海の選手はパスワークに乱れがなく、特にアウトサイド(外)をパスで崩すのが上手い。右サイド(山東の左サイド)から中に折り返したボールに対して、最も警戒していた 3 年生ボランチが鋭い 90° ターンで山東 CDF を一人抜き、そのままドリブルで力強く運んでフィニッシュ。ボールは GK 坂口の横

<sup>1</sup> 前者が、主に体を入れて、奪われないことに注意を向けたディフェンシブなドリブルで、後者が、主に敵と正対する、奪われるリスクを負いながらも抜くことに注意を向けたオフェンシブなドリブル。

<sup>2</sup> K-Pop(韓流ポップス)からの派生語? K-Popper から由来。リョウが韓流歌手のような左右非対称な髪形をしていたので、ゴメからつけられたあだ名。

を転々と転がりネットに吸い込まれる。1 - 1の振り出しに。下剋上を起こそうとしているチームが先制し周りをアッと驚かせるが、結局同点にされ逆転にされる、イヤ～な流れを感じる。「ここでどう立て直せるかが分かれ目だが・・・無理だろうな～」と、選手には申し訳ないが、実は顧問が弱気になりながら（というか何につけ一応は絶望的観測をしながら）戦況を見つめる。しかし！ 選手の成長が顧問の予想を裏切るから面白い！！ 同点にされてから、しっかり押し返し、山東の時間を作る。そうした中、CKからの発展プレーにおいて、右からの山なりのセンターリングに先のポッパーがジャンプ一番。打点の高いヘディングがさく裂し東海ネットを揺らす。前半はそのまま2 - 1。

さて、後半。ハーフタイムで、受け身にならず追加点を狙う強い気持ちをもって戦う意思を統一して選手をピッチに送り出しましたが、ピッチ上の選手はそれをしっかり実行。後半の前半は五分五分の試合展開。巧さでは引けを取っても、球際などのハートの強さが問われるところでは決して負けていない。しかし徐々に東海の流れか。東海のCK、山東の選手がヘディングでクリアするが、そのクリアボールが目の前の東海の選手の頭に当たりボールは山東ゴールへ、近くにいた東海の選手が押し込み、同点にされる。最初のヘディングの勝負では勝っていただけに惜しまれる失点。さすが東海、Y1 鶴工戦で内容的には勝っていても勝負に負ける悔しい負け方をして、粘り強さが出てきたように思われる。その後の山東は、左から右に大きく振って、決定的シーンを作り出すなど、攻撃でも見るべきものもありましたが、ややロングボールに頼り過ぎで、ロングキックが正確でないと成り立たない位置にしか相手ゴールに迫る選手がいないことが多い。もう少し近くでフォローする選手がいれば、時間はかかっても正確なパス回しで、着実に相手ゴールに近づけるのに、重たいピッチコンディションを考慮しないポジションが目立つ。最後の最後、着実なパスワークができるか否かで、東海との差を見せつけられた印象。やはり危険な選手の東海3年生ボランチが、山東ディフェンスラインにできた隙（ファーサイドにいたCDFが高い位置を取ったときに、そのCDFの裏のケアが遅れたことによりできた隙）を見逃さず、力強いドリブルからのシュートで逆転シュートを決める。先のヘディングの跳ね返りによる同点シュートのアシストも彼ですし、2得点1アシストを決められ、とうとう逆転を許す。その後、波状攻撃を仕掛けるも、東海ゴールをこじ開けることはできず、2 - 3の痛恨の逆転負け。

東海の顧問の先生や保護者の方から、またOB会HP上のコメントにて報道局長殿から、山東の夏の急成長ぶりへの驚きの言葉を頂きましたが、結局、負けは負け。1点差の逆転負けですが、その1点を僅か1点と見るか、大きな差の1点と見るかは評価する人によって分かれるところ。今回の東海戦、攻守にわたり山東の内容には評価できるところがあり、惜敗は間違いありませんが、接戦を勝ち切る東海との差は決して小さくない、と私には感じられました<sup>3</sup>。決して下を向かず次戦に向けトライいたしますので応援よろしくをお願いします。

9月4日(日)Y1第12節 新庄東戦 12:00~ @山形中央G

<sup>3</sup> 私が高校生の頃、山形県の高校サッカー界を長年率いられたある先生が、国体に備えた遠征時のミーティングにおいて、「(自分の率いるチームが)全国の強豪との対戦において接戦を演じるまでは比較的短期間のうちに到達したが、そこから勝ち切るまでが長くかかった、接戦で競り負けるのと競り勝つこととの間の差は大きい」とおっしゃられたことをよく覚えております。まさに至言。山東の選手諸君は、自分たちの成長に一方で喜びながら、されど勝ち切ることでできない弱さを直視する必要があります。